水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年十月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
朝子 凡士 喜夫 孤舟 田猫		さんさら	風子 音思		春駒 佳月 たくみ 六弦			しんい		永文 和暦 興亜城 鶴舟 孤		誠慈		さんさら
秋風やふわりとほどく紅茶の香 香りがほどけてゆくが良いですね。ふわりとほどく、という表現が良かった。	秋の夕心和むや梵鐘の音	稲刈の見上ぐ棚田や坊主あり	稲刈や隠居の出番小昼時 人の暖かい思いやり。	庇い合う老々介護暮の秋	別の世の入り口探す秋の蝶	仰ぎ見て見える限りの黄葉（もみじ）	黙祷し仰ぐ名月阿蘇の夜や	出格子の灯（あかし）にひらく夕化粧	秋晴れや乗換駅の喧嘩腰	嫁ぐ子と思い出語り障子張る どんな話をしたのでしょうか。母との良い思い出になりますね。色々な思い出があるのでしょう。	本日休漁二反の稲を刈る	音もなく十六夜よぎる騎馬の影	買い足しし温き珈琲秋深し	末を待つ実生の松の涼新た
無雲	宇田靖之	米山カロ ーリング	北郷興亜	森　佳月	新井のり子	つぶ金	西窪弘子	光雲2	ありぎりす	春駒	河野凡士	石関六弦	くみこ	孤舟

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年十月

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
			光雲2 しーしー				興亜 たくみ 喜夫 さんさら 孤舟		六弦		山菜			
満月や小石ポツンと水溜まり	相棒はペンと菓子パン秋遍路	大福と花立の野花（やか）秋の風	一陣の風一望の芒原	巣立ちし子それぞれの道秋の夜	こうだよと天球なぞるカシオペア	渡り鳥遠き故郷のへひとりごと	湧き水のとんがる朝や冬来たる とんがる朝が良いですね。湧き水のとんがるの冷たさの表現がいいですね。	栗十粒むいて二人の栗ご飯	父親が立派に見ゆる豊の秋 何故かそう思います。	古酒新酒蔵の庇に酒林	ケロリンの桶に湯の揺れ冬隣 ケロリンの桶と冬隣が秀逸。	ＡＩも句を詠む時代身に入みぬ	全集を閉づる夜長や鳥の声	雀らのおこぼれ突く刈田かな
和田イチ子	宇田靖之	小林土璃	朝子	高松和永	しーしー	さんさら	春代	くるみ	渋谷きいち	しんい	新　暦文	小林陸人	青木鶴城	龍野ひろし

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年十月

31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
凡士	きいち		のり子	一彦		菜 山 凡士	きいち	楽 つぶ金	朝子					
茸狩へ軍手軍足鉄兜 昨今山に入るには句のような重装備は必然、相手は熊なのだからオーバーではなく必然。	神無月錠剤二つ白湯一椀	機関庫のレール途絶えて秋更くる	白色の曼珠沙華あり蒼き空	行く秋や手帳の余白眩しくて 季語ゆく秋と下五眩しくての響きが余韻を誘います。	目を失くし枯葉匂える最晩年	飴ちゃんを配る豹柄紅葉狩 こんなおばちゃんいそうです。	先代の運ぶ新そば長寿庵	老いの身やかわたれ時のうそ寒し リズムがいい句です。「かわたれ時」教えて頂きました。	スダジイを込めてゴッホのリボルバー スタジイという生命の魂にゴッホの魂の銃弾を撃ち込むような、強烈な絵画的イメージが新鮮で、オリジナリティーのあふれる句。	きのう今日明日も繁盛上り月	取り入れを終えたる枝に茄子一つ	秋の夜のギザギザを持つ帽子かな	流星きみと腕組み見つめてる	ばさばさと木の実落ちるや欠伸ごと
染谷風子	宇田靖之	鈴木一彦	きりり	平野　楽	峰岡誠慈	神谷たくみ	わがん	持永喜夫	山菜	雪待月田猫	あきみ	石川順一	宇田靖之	米山カロリーング

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年十月

	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
			光雲2 わがん	土璃	光雲2 六弦		楽 一彦	土璃 一彦	文 暦 つぶ金 佳月 たくみ 田猫	山菜 わがん		土璃		順一	
秧兆すカレーうどんを誘う風															
秋暁や水銀灯のまだ白し															
待つことを忘れし我に捨案山子															
村里や一つ時分に門火焚く															
名月やムーンサルトの着地点															
埋め尽くす宇宙（そら）の渚のいわし雲															
冷まじや空き家の庭の三輪車							空き家の寒々とした情景が浮かびます。								
定刻の汽笛遠のく宵月夜															
手に受くる熟柿の重み日の温み									重み温みの繰り返しが良い。「み」で韻を踏むリズムと、収穫の喜びを伝える下五が秀逸。						
秋茄子の皮柔らかき間氷期										ここで間氷期が来るとはビックリ。					
肉まんの湯気立ち上るレジの横															
苗木植え花芽と見える秋深し															
カーナビの案内はみぎ鰯雲															
色変へぬ松色変へぬ都会人														「都会人」に惹かれました。	
マーブルのベールに透ける聖母冷ゆ															
	無雲	宇田靖之	新井のり子	北郷興亜	西窪弘子	光雲2	つぶ金	春駒	河野凡士	ありぎりす	くみこ	孤舟	石関六弦	日髙道を	小林土璃

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年十月

	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
選句	喜夫 しーしー		風子 のり子 誠慈					朝子		ひろし 風子 暦文 しんい	誠慈	佳月 のり子 音思	ひろし 米山 春駒 順一	興亜 わがん	和永 つぶ金
句	乗り遅れ歩きましょうか秋うらら	秋の夜をノーベル賞は明るくし	帰ると言ひ帰るなと言ふ夜長	パチパチと秋刀魚焼くのは誰かしら	長き夜やもう三つ目の甘露飴	幾百年黄葉散らす大銀杏	出来秋の鼻腔くすぐる棚田かな	天高しフル稼働なるコンバイン	冷やかや琥珀に透ける虫の翅	初産の牛の涙目身に入みぬ	物価高いよ細る身暮の秋	妻の老い進みゆく日々暮の秋	ロボットは私の上司文化の日	一息に葱剥いて妻無言なり	旧邸の歪む硝子や昼ちちろ
選評	あるきましょうか　軽やかですね。季語がぴったり。		長き夜は人恋しいもの。秋の夜長の秘め事か。							初産は牛でも苦しい、とても他人事とは思えない。		奥さんの介護でしょうか？	勲章授章式にいつかロボットも並ぶようになるのか時世を詠んだ秀句。	意味深な句ですね。	寂しさがつのります。「昼ちちろ」に共鳴。
作者	和田イチ子	宇田靖之	朝子	さんさら	春代	しーしー	渋谷きいち	しんい	くるみ	小林陸人	青木鶴城	新　暦文	染谷風子	霜里	龍野ひろし

水明インターネット句会（選句・選評）　令和八年十月

	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
			米山 しーしー		きいち	鶴城	和永　順一 ひろし 楽 春駒 鶴城 田猫	音思 しんい	米山						
	柿見ればふる里想ふ旧友（とも）想ふ	母の声消えゆく空や鰯雲	瀬渡しの小舟一艘月の朝	理不尽な妻のメールや秋うらら	大雨をくぐりこの手に今年米	健康かうまさか予後の秋おかず 旨いものは高カロリー、医者には駄目だと言われるが・・・。	豆腐屋の柱に喇叭秋深し 世の中は変わりました。引き売り時代の懐かしきラッパ。	不知火や烏賊釣り船の波の間に 烏賊釣火と不知火、共に幻想的な海のひかり。	茄子一つ畑仕舞いに見つけたり	鼻毛五本抜けば秋思の空気かな	雲従え月はファラオの色に照り				
	きりり	宇田靖之	鈴木一彦	神谷たくみ	わがん	峰岡誠慈	山菜	持永喜夫	あきみ	石川順一	雪待月田猫				